

新篠津村 小中一貫教育基本方針

令和 2 年 9 月
新篠津村教育委員会



目 次

<u>はじめに</u>	1
<u>I 小中一貫教育の定義</u>	2
<u>II 小中一貫教育を目指す背景</u>	2
(1) 現状と課題	2
(2) 取り組みの経緯と小中一貫教育導入の目的	5
(3) 小中一貫教育導入により期待できる効果	5
<u>III 新篠津村小中一貫教育基本方針</u>	6
新篠津村教育目標	6
(1) 小中一貫教育のねらい	6
(2) 小中一貫教育の基本方針	7
(3) 基本方針を具現化する「新しのつの豊かなつながり」	8
(4) 推進の視点と具体的な取り組み	8
新しのつ小中一貫教育全体構造図	10
新しのつ めざす子ども像	11
<u>IV 新しのつ小中一貫教育の形態及び推進組織</u>	11
(1) 形態	11
(2) 推進組織	12

はじめに

本村では、令和元年度から新篠津村まちづくり総合計画を策定し、8年間の基本構想並びに4年間の基本計画を指針としながら「豊かな田園に囲まれた 笑顔あふれるまち・新しのつ」を将来像に示しました。その施策の一つとして「心豊かな人を育てるまち」を掲げ、学校教育の充実を図っています。具体的には、新篠津村教育大綱に基づき、学校・家庭・地域が一体となり、社会で生きる実践的な力や自立していく力を育てるとともに、郷土愛を育み、次世代を担う人材の育成を進めていきます。その主要施策の一部は以下の通りです。

1 教育環境の充実

(1) 義務教育9年間が一貫・連続した教育内容となるよう、小中連携教育から小中一貫教育への円滑な移行に向けて検討協議体制を整備し、取り組みを推進します。

2 教育内容の充実

(1) やさしさと創造性にあふれ、確かな学力を身につけた子どもを育成する教育の推進に努めます。

3 地域と一体となった学校づくりの推進

(1) 学校・家庭・地域が一体となり、社会総掛かりの教育を実現するコミュニティ・スクールの充実を図ります。

(2) 郷土愛を育むため、世代間交流や農業・職業体験、地域の伝統行事等への参加を推進します。また、地元の食材を使った給食提供に努めます。

4 教職員の資質・指導力の向上

(1) 学校指導主事の配置により、教職員への指導・助言・研修機会の確保提供を進め、教職員の資質・指導力向上を図ります。

小中一貫教育の推進については、これまでも児童・生徒の発達段階等を考慮した小中学校間の円滑でゆるやかな連携を進めてきました。変化の激しい将来を見据え、今後はさらに義務教育9年間を見通した教育を推進し、子どもたち一人ひとりの良さを生かすとともに、本村教育の更なる質の向上を図り、総合計画や教育大綱で示す教育の実現を図っていきたいと考えています。

このようなことから、新篠津村教育委員会（以下「村教委」という。）では、円滑な推進を目指し、本村の小中一貫教育の考え方を示す「新篠津村小中一貫教育基本方針」を策定しました。

I 小中一貫教育の定義

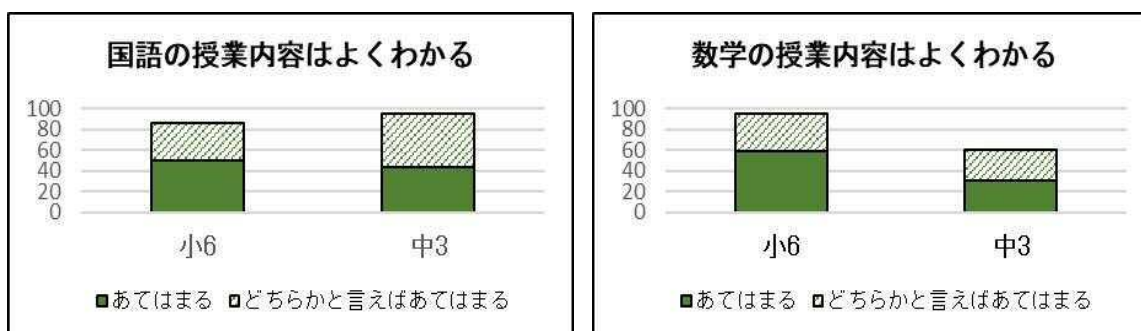
小中一貫教育 小中連携のうち、小・中学校がめざす子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育。

※中央教育審議会初等中等教育分科会の部会協議内容を参考に定義

II 小中一貫教育を目指す背景

(1) 現状と課題

次のグラフは、平成31年度全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙における国語、算数・数学の授業内容の理解について小6と中3に尋ねた結果です。



(平成31年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙より)

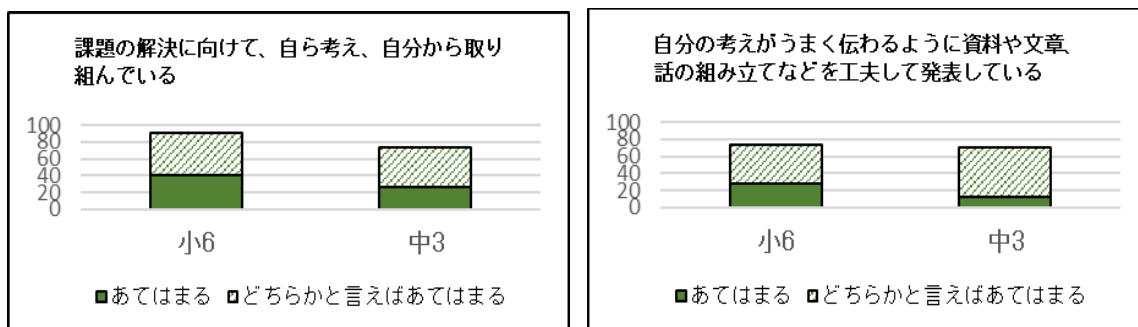
国語では、「授業の内容がわかる」と肯定的に回答する小6児童が86.4%、中3生徒が95.7%であり、高い傾向にあります。一方で、算数・数学では、その割合は小6児童が95.5%、中3生徒が60.8%であり、中学生が大きく下回っています。特に中3生徒の「正答数の少ない層の割合」が21.6%であり、数学の理解は低い状況にあります。

小・中学校それぞれが、子どもたちにとって「よりわかりやすい授業づくり」に努めていくことは当然ですが、例えば、中学校が「中学校では、〇〇の領域につまずきが多く見られる傾向にあるので、小学校の頃から〇〇の部分は重点化して教えてほしい」という思いを小学校に伝えたり、小学校が「〇〇の部分はどこで教えているのだろう」という中学校の疑問に応えたりする中で、小・中学校が力を合わせてこの現状を改善していく必要があります。これは授業だけにとどまらず、全ての教育活動に言えることと考えます。

新たに導入された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現や道徳の教科化、小学校外国語教育の充実、プログラミング教育の充実などが示されており、さまざまな学習活動が教育課程に位置づけられています。更には、「地域とともにある学校づくり」と

してのコミュニティ・スクールの導入もなされました。今まで以上に小学校と中学校が力を合わせて、お互いの学習内容や学習方法を共有してつなげ、子どもたちにとってよりわかりやすい学びの場を展開していくことが強く求められています。

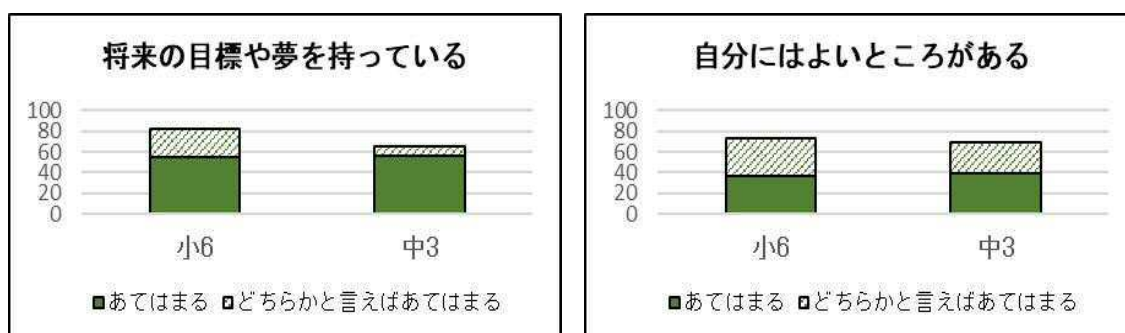
これらの内容は、生きて働く知識・技能の習得や新しい時代に求められる資質・能力を児童生徒に育むことが目的であり、「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」「何ができるようになるか（どう活用していくか）」が視点となります。



(平成31年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙より)

「課題の解決に向けて、自ら考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答する小6児童が90.9%、中3生徒が73.9%です。この結果から、中学生は、つまずきをいくつも抱えており何から手がけていけばよいのかわからない、そもそも何のために学ぶのか疑問を抱いている生徒の割合が高くなっていることも考えられます。また、**「自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している」と肯定的に回答する小6児童が72.8%、中3生徒が69.5%であり、底上げが必要です。**論理的思考やコミュニケーション能力の育成が課題となります。

続いて、将来の自立に向けて必要とされる「目標や夢の存在」や「自己肯定感の高まり」については、以下のような結果です。

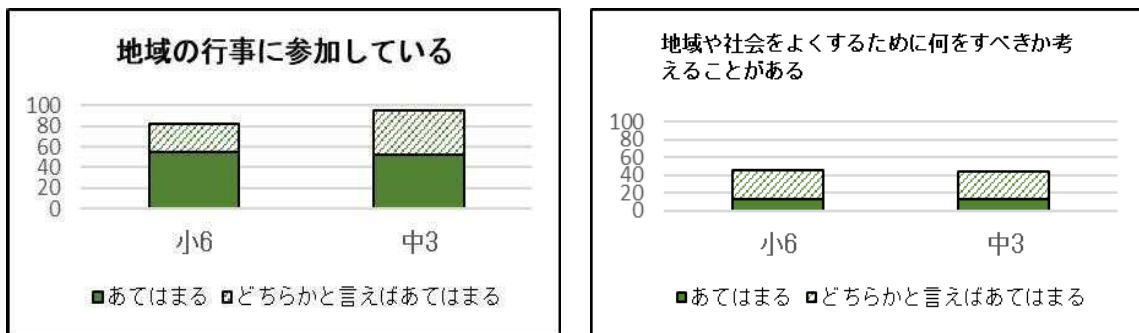


(平成31年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙より)

「将来の夢や目標を持っているか」という設問に対し、肯定的に回答する小6児童が81.8%、中3生徒が65.2%です。これは、全国的な傾向ですが、中学生が小学生を大きく下回っています。夢や目標を持つことが、粘り強さや対応力、社会性といった非認知能力の育成にもつながります。社会への自立のためにも、様々な経験を通して夢や目標の実現に向かって努力する子どもに育てていく必要があります。

また「自分にはよいところがあるか」という設問に対しての肯定的回答は、小6児童が72.8%、中3生徒が69.5%でした。子どもは多くの人や環境との関わりの中で育っていきます。地域社会との関わりの中で育まれる資質・能力が、子どもの自信につながり、自己肯定感の高まりを生み出します。

最後に、これからの教育に求められる「地域との連携・協働」について、以下の資料を参考とします。



(平成31年度全国学力・学習状況調査児童・生徒質問紙より)

「地域の行事に参加している」と肯定的に回答した小6児童が81.8%、中3生徒が65.2%であり、高い数値を示しました。これは地域と学校の良い関係を示すバロメーターとなり、本村教育の強みと捉えることができます。

他方、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的に回答した小6児童が45.4%、中3生徒が43.4%でした。地域行事に対しても、子どもの発達段階を考慮しながら、可能な範囲で参加型から参画型へと変えていくことが、郷土愛の更なる育成につながると期待できます。

以上のような課題や期待される成果を生み出すためにも、小学校と中学校がよりつながりを強化し、9年間を見通した学習指導や生活指導等、連続した教育活動に取り組んでいく必要があります。

(2) 取り組みの経緯と小中一貫教育導入の目的

本村においては従前より、小学校と中学校の接続が重要であると考え、新篠津村教育研究会が主体となって、小・中の連携を重視した教育に取り組んできました。実践の歴史を振り返ると「小中一貫教育」という言葉は、昭和の時代から使われており、小・中のつながりを意識した教育活動が展開されてきました。これは本村に存在する小・中学校が1校ずつであるという強みを生かした取り組みとなり現在に至っています。

このような中、子どもたちを取り巻く教育課題がますます多様化、複雑化してきており、その解決手段の一つとして小中一貫教育の充実が求められています。令和2年度は、本村の会計年度任用職員として小中一貫教育推進員を配置し、特に算数・数学の系統的な学習支援を展開しています。

令和3年度からは、将来の新篠津村の担い手となる子どもたちに、ふるさと新篠津への愛着を深め、社会で生きる実践力や対応力を身につけさせる必要性があると強く感じ、小中一貫教育の本格実施を進めます。すでに導入されているコミュニティ・スクールとこの小中一貫教育が両輪となり、小学校・中学校・家庭・地域・村教委が同じ視点に立ち、子どもたちの教育にあたります。

それが「児童生徒の学力・体力の向上」や「豊かな人間性・社会性及び自己有用感の醸成」、
「ふるさと教育の充実」に大きく寄与するものと期待して、学びの系統性を重視し、小学校段階・中学校段階の指導方法の交流や9年間を接続させたカリキュラムの編成・実施を進めていきます。

(3) 小中一貫教育導入により期待できる効果

小中一貫教育の導入により、次のような成果が期待できます。

① 確かな学力・体力の育成（新しい時代に必要となる資質・能力の育成）

9年間で子どもたちを育むという視点に立ち、めざす子ども像を共有した中で、系統的な指導を行うことにより、学校の抱える教育課題の解決に向けた取組が充実し、児童生徒一人ひとりが持てる力を十分に発揮するなど、健やかな成長が実現できます。

② 豊かな人間性・社会性及び自己有用感の醸成

異校種間の連携による行事など、集団の中において年齢の違う様々な人と関わること

により、児童生徒の人間性や社会性が育まれ、更には自己有用感の高まりが期待できません。

③ 地域とともにある学校づくりの充実

コミュニティ・スクールの機能を生かしながら、小学校・中学校・家庭・地域・村教委が協働することにより、児童生徒の社会性が系統的・継続的に育まれるとともに、「ふるさと教育」の更なる充実につなげることができます。

④ 教師の指導力向上

指導内容や指導方法の相互理解を深めることにより、教師としての視野が広がり、9年間を見通した教育観・授業観が醸成され、更には児童生徒の学力や体力、学びに対する意欲の向上を図ることができます。

Ⅲ 新篠津村小中一貫教育基本方針

新篠津村教育目標

新篠津村の大地にしっかりと根をおろし、きびしい自然に耐え、豊かな郷土づくりをめざして

- ・ 生命を大切にし、豊かな郷土をつくる人
- ・ 仕事にはげみ、進んで行動する人
- ・ 心とからだをきたえ、たくましく生きる人
- ・ 美しさを求め、新しい文化を築く人
- ・ 理想をめざし、学び続ける人

新篠津村が掲げる上記教育目標の実現に向けて、以下の内容で小中一貫教育を進めます。

(1) 小中一貫教育のねらい

コミュニティ・スクールと小中一貫教育が両輪となり、学校・家庭・地域・村教委が一体となって「子どもの連続した学び」を支える体制を構築し、義務教育9年間で修了するに相応しい「生きる力」を育成する。

コミュニティ・スクールと小中一貫教育は極めて親和性が高い取り組みです。コミュニティ・スクールは、学校と地域をつなぐ仕組み、小中一貫教育は、小・中学校の児童生徒間、

教職員間をつなぐ仕組みであり、いずれも児童生徒に多様な人との関わりを持たせたいという共通した願いがあります。また、コミュニティ・スクールの観点からすれば、小中一貫教育は学校と地域が連携・協働して、9年間という長いスパンで子どもの成長を継続的に支える仕掛けともいえます。

この小中一貫教育では、学校・家庭・地域・村教委が、めざす子ども像を共有しながら、発達段階や連続性を踏まえたカリキュラムを編成し、系統的に教育活動を推進することで、学力・体力の向上、豊かな心の育成などにおいて、教育効果を最大限上げていくことを目的とします。

(2) 小中一貫教育の基本方針

めざす子ども像の実現に向けて、小・中学校の教育課程9年間における教育として、4つの基本方針を定めます。

《基本方針1》 村全体での「めざす子ども像」の共有

本村が願う「やさしさと創造性にあふれ、確かな学力を身につけた子どもの育成」に向けて、子どもの実態を踏まえ、特色を生かしながら、知・徳・体のそれぞれについて発達段階ごとの重点的な視点を設定し、指導目標を定めていきます。

《基本方針2》 中学校卒業までを見通した一貫した指導

発達段階ごとの課題を共有しながら、授業内容・方法の改善や、基本的学習・生活習慣の定着等のための約束ごとの確立や重点的・系統的な取り組みを明確にした教育課程を編成・実施します。

《基本方針3》 コミュニティ・スクールの仕組みを生かした豊かな教育環境づくり

地域の学校支援や地域貢献活動など、村全体の教育資源を活用した教育活動を協働して展開し、豊かな教育環境づくりに努めます。

《基本方針4》 子ども同士、教職員間の交流・連携・協働

児童生徒間や地域との関わりの中での多様な人との交流により、豊かな人間関係やコミュニケーション能力の向上を図ります。また、教職員同士の合同研修等により、教職員の力量を高めるとともに協働体制を確立していきます。

(3) 基本方針を具現化する「新しのつの豊かなつながり」

子どもを中心に据えながら、学校・家庭・地域・村教委がつながりを保ち、「子どもの連続した学び」を支える体制を構築します。そして、義務教育9年間で修了するに相応しい「生きる力」を育成していきます。

《豊かなつながり1》 学びをつなぐ

義務教育9年間で連続した期間と捉え、一貫性・継続性を大切にした教育課程を編成し、学力・体力の向上をめざします。

《豊かなつながり2》 なかまをつなぐ

多様な人との交流の場を設けることで、人間性・社会性、実践力のあるコミュニケーション力の育成をめざします。

《豊かなつながり3》 ふるさとをつなぐ

地域とのつながりを大切にし、多様な視点で子どもを育て、ふるさとを愛し、ふるさとに生きる力を子どもたちに育みます。



(4) 推進の視点と具体的な取り組み

1 教育課程における一貫性の確立

学習指導要領における各教科・領域の目標や内容を踏まえ、子どもの実態を把握した上で、重点的に取り組む指導内容や指導方法を明らかにし、「連続した学び」を意識した「学校づくり」「授業づくり」を進めます。それが、小・中学校の接続をスムーズにし、確かな学力・体力を育むことにつながります。

- ◆学習内容の系統性、重点化を図った9年間を見通した一貫した教育課程の編成・実施
- ◆乗り入れ授業、小学校高学年における一部教科担任制等、学習指導体制の工夫
- ◆学習方法の定着と家庭学習の習慣化等、学習方法定着のための一貫した指導

- ◆小・中学校間での創意工夫による取り組み（キャリア教育、外国語教育、プログラミング教育など）

2 豊かな人間性・社会性と自己肯定感の醸成

異校種間の連携による行事など、子どもたちが集団の中において様々な人と関わることで、豊かな人間性や社会性、自己肯定感を醸成します。

- ◆9年間で一貫性のあるキャリア教育の全体計画・指導計画の確立と実施
- ◆「新しのつスタンダード」^{*}の確立と、家庭と一体となった生活習慣の指導
(※「新しのつスタンダード」とは、小学校と中学校の共通の約束事です。)
- ◆児童会・生徒会合同による活動、小・中学校合同の地域貢献活動などの実施
- ◆学年・発達段階に応じた道徳教育の実施と充実

3 コミュニティ・スクールを生かした地域との連携・協働

地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりを基盤として、新篠津の子どもたちの連続した学びを地域全体で育むことができる、地域と協働した教育活動を推進します。

- ◆地域の特色を生かした教育支援、体験活動など「ふるさと教育」の充実
- ◆地域の教育資源を有効に活用した教育活動の推進
- ◆地域行事への積極的参加・参画と地域貢献活動の推進
- ◆共通項目による学校評価の推進と共有

4 小・中学校の教職員間の連携・協働

小・中学校の教職員が、連携・協働して子どもたちの「生きる力」を育むとともに、異なる校種の指導の良さを生かした授業改善、合同研修会などによる教職員の指導力向上を図ります。

- ◆9年間を見通して児童生徒を育てるという教職員の意識改革
- ◆異なる校種の指導のよさを生かした指導の工夫や授業改善
- ◆相互授業交流、合同研修会による自己研鑽と指導力の向上

新しのつ 小中一貫教育 全体構想図

めざす子ども像「ふるさとを愛し 夢や目標をいだいて 未来を切り拓こうとする たくましい子ども」

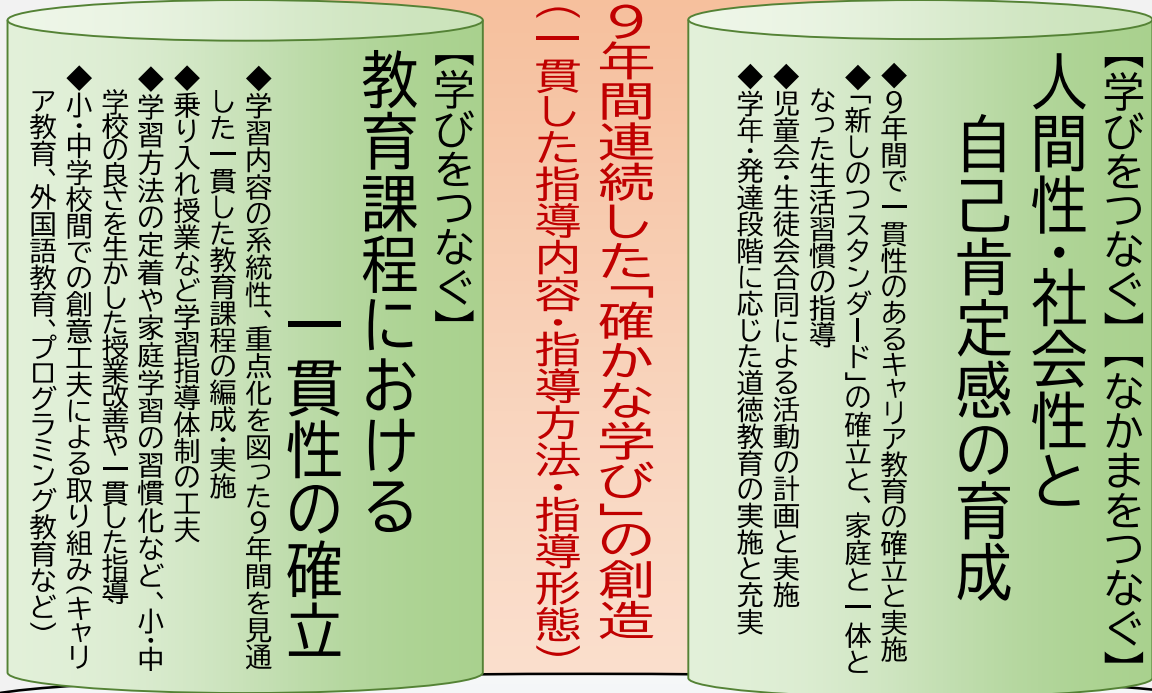
基本方針

- 1 村全体での「めざす子ども像」の共有
- 2 中学校卒業までを見通した一貫した指導
- 3 コミュニティ・スクールの仕組みを生かした豊かな環境づくり
- 4 子ども同士、教職員間の交流・連携・協働

新しのつの豊かなつながり

- ◆学びをつなぐ ◆なかまをつなぐ ◆ふるさとをつなぐ

発達段階や連続性を踏まえた目標設定と共有



小・中学校の教職員間の連携・協働 【なかまをつなぐ】

- ◆ 9年間を通して児童生徒を育てるという教職員の意識改革
- ◆ 異なる校種の指導のよさを生かした指導の工夫や授業改善
- ◆ 相互の授業交流、合同研修会による自己研鑽と指導力の向上

コミュニティ・スクールを生かした地域との連携・協働【ふるさとをつなぐ】

- ◆ 地域の特色を生かした教育支援、体験活動など「ふるさと教育」の充実
- ◆ 共通項目による評価の推進と共有
- ◆ 地域の教育資源を生かした教育活動の推進
- ◆ 地域行事への積極的参加・参画と地域貢献活動の推進

新しのつめざす子ども像

ふるさとを愛し 夢や目標をいだいて
未来を切り拓こうとする たくましい子ども

新しのつ子どものちかい

- 1 元気にあいさつをします
- 2 「ありがとう」「ごめんなさい」をすなおな気持ちで伝えます
- 3 困っている人がいたらやさしく言葉をかけます
- 4 何ごとにも最後までがんばります
- 5 新しのつのことを好きになります

新しのつ子育ての誓い

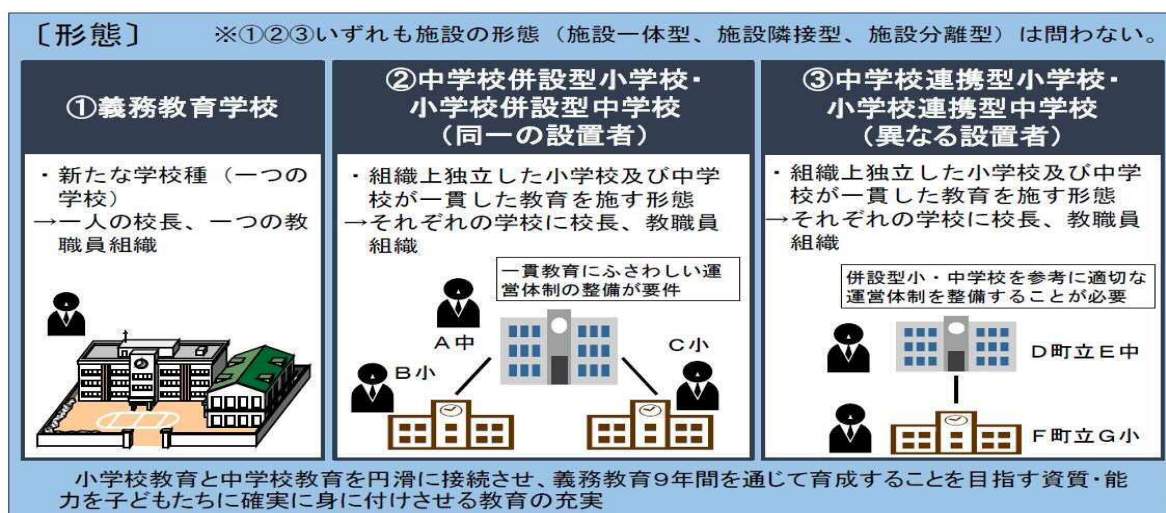
- 1 見守るまなざし、声かけを大切にします
- 2 自分の気持ちを素直に伝えられる子どもを育てます
- 3 周りとのかかわり合いを大切にする子どもを育てます
- 4 子どもに誠実に生きる姿を見せます
- 5 新しのつに誇りをもち、地域に貢献する子どもを育てます

子どもは、私たちの宝です。次世代の新しのつを支える存在です。村全体で、子どもの健やかな成長を願い、夢に向かってたくましく生きる子どもたちを育てましょう。

IV 新しのつ小中一貫教育の形態及び推進組織

(1) 形態

小中一貫教育は、学校施設や地域環境、取り組みの方法などにより、一般的に以下のような形態が考えられます。本村では、②の「中学校併設型小学校・小学校併設型中学校（同一の設置者）」が当てはまります。



(2) 推進組織

新篠津村コミュニティ・スクール及び新篠津村教育研究会とのつながりを大切にしながら推進組織を確立していきます。

